

北海道南西沖地震と利尻島の津波の被害

1993（平成5）年7月12日午後10時17分、北海道南西沖地震が発生しました。地震後約5分で、津波が西南から奥尻島に押し寄せました。そして、津波は東側の北海道江差市に行って引返ってきて、18分後再度利尻島に押し寄せました。その後、船の重油で火災が発生して、家々のプロパンガスが爆発して、大火事になりました。

特に南の青苗地区は被害が大きく、500数件の家で、残ったのは100軒余りです。青苗地区は漁村の集落が密集していて、地震が夜中の10時過ぎでした。漁師の人達は朝が早く、寝ていたこともあって、津波が来ても逃げないで津波ののまれた人も多かったです。島だったので、負傷者はどのようにして北海道に運んだのか、救援物資は海と空からの輸送でした。ちなみに、利尻島の震災前の人口は約8千人、現在は約2,169人とのことです。北海道の西側には、ユーラシアプレートと北米プレートとがぶつかり合っています。ここは正に地震の多発地帯です。北海道電力が再稼働をうかがう泊原発も、この近くにあります。

8月10日～11日、奥尻島へ行きました。北海道西側の江差港からフェリーで約2時間20分の旅です。フェリーは2等船室ですが、カーペットが敷かれていて、備え付けの枕で、寝て本を読んだり、眠ったりです。私は、船旅が究極の交通手段だと思います。島はどこでもそうですが、海あり山ありの自然があって、時間がゆっくりと流れています（しま時間）。都会生活（？）で傷ついた心の洗濯ができました。利尻島のマスコットキャラクターは「うにまる」、残念ながらウニは食べませんでした。

奥尻島津波館に行きました。震災の時のパネルが30枚ぐらいあります。地震前⇒地震後⇒復興後の3枚のパネルを見ると、被害と復興の様子がよくわかります。パネルでは、津波で家屋がバラバラになった写真や、火事で燃えている写真が、目に飛び込んできます。木造住宅が多かったので、津波で家屋が流された後で、火事で燃えている様子が良く分かります。北海道南西沖地震の時に、国民がもっと津波に対して関心を持っていたら、東日本大震災の津波の犠牲も、少なくできたかもしれません。

【北海道南西沖地震】1993年（平成5年）7月12日午後10時17分、北海道奥尻郡奥尻町北方沖の日本海底で発生、震源の深さは34km、マグニチュード7.8、推定震度6～7（地震計がなかったの）の日本海側最大の地震、死者202人、行方不明者28人
*奥尻地区の観音山大崩壊はふもとにあったホテルやレストラン、灯油備蓄タンクなどを飲み込み、大惨事を招く
*奥尻町には地震発生後の2～3分後に津波の第一波が到達、4～29mの大津波が襲い、島全体に壊滅的な被害をもたらす。
*青苗地区では建物火災が発生し、津波と火災により一夜にして壊滅状態となった。延焼面積は約5ha、焼失家屋は192棟に及んだ

【震源地に立つ津波の慰霊碑（利尻島青苗地区）】



【海を見渡す高台に建つ慰霊碑（利尻島賽の河原）】

